



フ
エ
ア
ウ
エ
ル

公演日
5月5日夜

出演者

石川由依<ヨルハ二号B型(2B)>

安元洋貴<ポッド042>

あきやまかおる<ポッド153>

花江夏樹<ヨルハ九号S型(9S)>



ポッド153
(ナレーション、以下：ナ)

全ての存在は滅びるようにデザインされている。

ポッド153 (ナ)

生と死を繰り返す螺旋に……

ポッド153 (ナ)

『私達』は囚われ続けている。

ポッド153 (ナ)

これは、呪いか。

ポッド153 (ナ)

それとも、罰か。

ポッド153 (ナ)

不可解なパズルを渡した神に、

ポッド153 (ナ)

いつか、『私達』は弓を引くのだろうか？

◎テロップ「09月05日」

ポッド042

ヨルハ機体2Bのバイタル確認。

ポッド042

記憶領域、思考野、補助運動野、再起動確認終了。

ポッド042

再起動シーケンスに入る。

2B

う……

ポッド042

おはようございます。2B。

2B

私は……

ポッド042

報告：ヨルハ機体2Bは、今から1718時間前にヨルハ機体A2によって殺害された。

2B

1718時間……72日前……

ポッド042

その後、我々随行支援ユニットにより部品を再構成

ポッド042

内部に存在していたウイルス情報は「塔」崩壊と共に不活性化し、現在も活動を停止している。

2B

塔……？ 一体、何の事……

◎2B、何かに気づく。

2B

ッ!! 9S……!

ポッド153

報告：ヨルハ機体9Sは、今から740時間前に活動を停止した。

2B

ポッド……153？

ポッド153

重度の汚染状態にあったが内部に存在していたウイルス情報は「塔」崩壊と共に不活性化し、現在も活動を停止している。

2B

9Sは……眠ってるの？

ポッド153

否定：9Sの再起動シーケンスに不具合あり。

2B

不具合って一体……

ポッド153

不明：全ての再チェックは完了したが自我データのローディングが開始されず再起動出来ない状態。

2B

自我データがロード出来ない……

じゃあ、監視シーケンスを走らせながら、
チェックシーケンスをスキップして……

ポッド153

否定：既に³⁴通りの組み合わせの対処を、
⁴⁵回⁵⁰⁰回試行し、
全て失敗に終わった。

ポッド153

この状態は、何らかの理由により9Sの自我データが消失しているという可能性を示唆している。

2B

自我データの消失……

ポッド153

提案：ヨルハ機体9Sの義体処分についての検討。

◎2B、強い調子で。

2B

義体処分なんて、する訳ない……ッ

ポッド153

○しばらく間。

……了解。

修復の終わった9Sの義体は汚れ一つない状態で……

2B (ナ)

その顔は、まるで眠っているようだった。

2B (ナ)

私は、武器を手に取り、必要最小限の荷物をまとめ、立ち上がった。

2B (ナ)

行かなければ。

2B (ナ)

9Sを再起動する為の方法は、必ずある……

2B (ナ)

そう信じて。

◎テロップ「09月14日」

2B (ナ)

私が居なかった間の情報をポッド達から入手した。

2B (ナ)

A2の事、そして……9Sの事。

2B (ナ)

機械生命体作った巨大な「塔」と呼ばれる建造物を、
A2と9Sが破壊した事も聞いた。

2B (ナ)

今は、そのガレキが街の至る所に、積み重なって山になっている。

2B (ナ)

廃墟都市一体は、その景観を一変させていた。

ポッド042

推奨：レジスタンスキャンプでの情報収集。

2B (ナ)

レジスタンスキャンプは「塔」の崩落から
奇跡的に難を逃れていたもの……

2B (ナ)

デボル・ポボルを含めた何名かのレジスタンスは、
機械生命体との戦いで命を落としたらしい。

2B (ナ)

アネモネは大変な状況ながらも、気丈に振る舞っている様子だった。

178

2B (ナ)

私はアネモネと9Sの自我再起動についての情報交換をしたが、あまり有力な情報は得られなかった。

ポッド153

報告：バンカー関連記録の消失。

2B (ナ)

私達ヨルハ機体は特殊なモデルだ。

2B (ナ)

他のアンドロイドには存在しない「ブラックボックス」という器官が付いており、

2B (ナ)

そのエネルギーで高い機動性能を獲得している。

2B (ナ)

だが、一般的なアンドロイドと異なり、メンテナンスは本来バンカーの技術部しか出来ない。

2B (ナ)

アクセスポイントにあった僅かな資材やプログラムによって簡単な修復は可能だったが、機体内部の詳細情報などはバンカー陥落と共に消失してしまった。

2B (ナ)

それでも、私は情報を求めて各地を彷徨った。

2B (ナ)

何日も、何日も……

179

ポッド042

警告：ヨルハ機体2Bのメンテナンス不良によるダメージが増加。

ポッド042

推奨：適切な修復処置と、消耗品の交換。

2B (ナ)

疲れきった私は、応急処置をする事すら面倒になっていた。

2B (ナ)

心の片隅で、全てが無駄なんじゃないか、と感じ始めている。

2B (ナ)

もう、どうでもいい。

2B (ナ)

もう、9Sは起きないのではないか。

2B (ナ)

そんな黒い感情が思考野に広がりそうになる度に、

2B (ナ)

私は、首を振って否定する。

2B (ナ)

諦めてはいけない。諦めてはいけない。諦めてはいけない。

2B (ナ)

それが欺瞞だとしても、認めるわけにはいかない。

2B (ナ)

重くなった体を引き起こす。

2B (ナ)

ここから、さらに遠い区画なら、
ヨルハ機体の生存者もいるかもしれない。

ポッド153

報告…メール受信。

2B

メール……確認して。

◎ポッドの口調のままメールの本文を読む。

ポッド153

送信者…ジャッカス

ポッド153

件名:「9Sの自我データ再起動について」

ポッド153

よう、元気か？ 2B。

ポッド153

この前の9Sの件について、ちょっと判った事がある。

ポッド153

あれから私の方でも色々調べてみたんだが、ちょっと気になる情報を見つけてね。

ポッド153

9Sの記憶領域の外部アクセスポートにログが残ってた。

ポッド153

機械生命体の作った「方舟」と呼ばれるオブジェクトからの通信記録だ。

ポッド153

「方舟」が何かは判らないが、おそらく、サーバーか何かの類だろう。

ポッド153

ログに書いてあった時間と座標を一応送っておく。

ポッド153

そこに、もしかしたら何かヒントがあるかもしれない。

ポッド153

◎少し間があり、

メール本文は以上。時間と三次元座標データが添付されている。

2B (ナ)

その座標は……「塔」の崩壊した場所を示していた。



◎テロップ「09月17日」

2B (ナ)

見渡す限り、一面の白いガレキの山、山、山……

2B (ナ)

「塔」が崩落した場所の中央に私はいる。

2B (ナ)

私はそこで穴を掘っていた。

ポッド153

推測：当該地点は現地点より40m下方に存在。

ポッド042

推奨：効率的な掘削方法の検索。

2B (ナ)

そうだ。ジャッカスが送ってきた座標は、塔のガレキに埋もれた場所を指し示していた。

2B (ナ)

私はそのガレキを掘って、座標の位置まで降りようとしている。

2B (ナ)

だが、「塔」の素材は思ったより固く、遅々として掘削は進まなかった。

2B (ナ)

息が白い。気づくと雪が降っている。

2B (ナ)

「塔」のガレキが周囲の熱を吸収し、冷却しているらしい。

2B (ナ)

ポッド達によれば、ケイ素などを中心とした、
機械生命体由来の素材という事だ。

2B (ナ)

だが、そんな事はどうでもいい。

2B (ナ)

私はただ、穴を掘るだけだ。

ポッド153

推測：当該地点は現地点より25m下方に存在。

ポッド042

警告：ヨルハ機体2Bのメンテナンス不良によるダメージが増加。

2B (ナ)

下に降りるにつれて、「塔」の材質が固くなってきた。

2B (ナ)

掘り進むには武器を使っていたが、手軽に扱える片手剣の使用を止め、
格闘装備に切り替え、砕くように掘り進める。

2B (ナ)

ひたすら無心で穴を掘り続けていると、余計な事を考えなくても済む。

2B (ナ)

痛覚神経に痛みが走る。

2B (ナ)

だが、この痛みがあるうちは正気を保っていられる。

ポッド153

推測：当該地点は現地点よりも12m下方に存在。

ポッド042

警告：ヨルハ機体2Bのメンテナンス不良によるダメージが増加。

ポッド042

警告：適切な修復処置を行わない場合、機体に深刻な影響が発生。

2B (ナ)

掘り進めるにつれ、

「方舟」と呼ばれるオブジェクトの正体が判ってきた。

2B (ナ)

複雑な結晶を組み合わせた、大きなメモリユニットのようだ。

2B (ナ)

だが、粉々に砕かれており、「生きている」結晶は見当たらなかった。

2B (ナ)

それでも私は、「方舟」の結晶を探して掘り進める。

2B (ナ)

格闘装備の隙間から血が飛び散った。

2B (ナ)

指先の感覚はおろか、

手首から先のセンサーは全て死んでしまっていた。

2B (ナ)

強制的に固定したボルトが肉に食い込んでいるのだ。

2B (ナ)

そんな事はどうでもいい。

2B (ナ)

この先に、9Sを救う為の情報が……

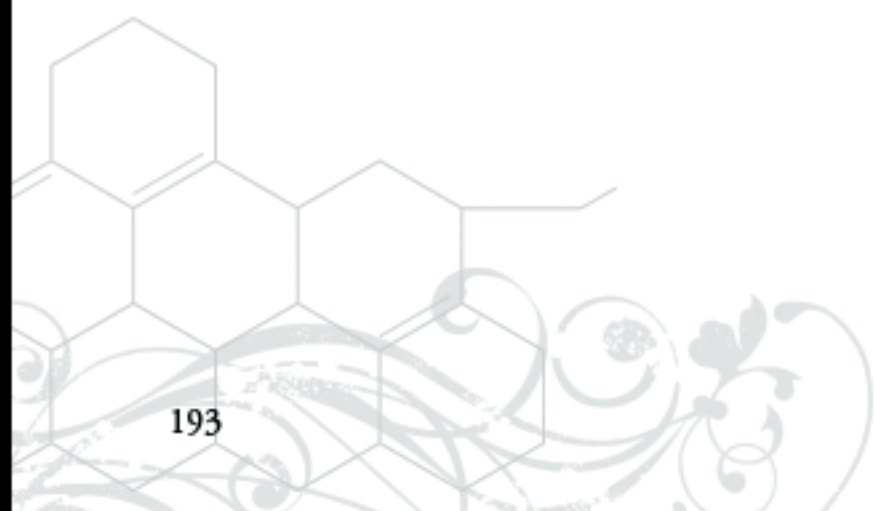
2B (ナ)

「方舟」の破片が少しでもあれば、私は……私は……!!

ポッド042

○「E」というエラー音。

警告：ヨルハ機体2B。過負荷による強制シャットダウン。



◎テロップ「09月19日」

ポッド042

緊急用ナノマシン除去完了。

ポッド042

ヨルハ機体2Bのバイタル確認。

ポッド042

再起動シーケンスに入る。

◎「……」と長いアラート。

◎その後、「……」と長いアラート（OTMは……）

ポッド042

おはようございます。2B。

2B

私は……

ポッド042

過酷な連続運用による、強制機能停止。

2 B (ナ)

私が慌てて「方舟」について聞くと、ポッド達は小さなオレンジ色に光る結晶を取り出した。

2 B (ナ)

見つけた破片は、機械生命体の通信プロトコルを残したものだっただけ。

2 B (ナ)

そのプロトコルとデータを使って、鍵のようなものを作り、9 Sの記憶領域を開けるとの事だ。

2 B (ナ)

詳細の説明は聞いても理解出来なかったが、少なくとも穴を掘り続けた意味はあったらしい。

2 B (ナ)

ポッド達は吸い出したデータを修復用ワクチンに組み替えた。

2 B (ナ)

そして、9 Sのアクセスポートからケーブルを引き出し、有線接続する。

2 B (ナ)

これで、修復用ワクチンを流し込める筈だ。

2 B (ナ)

あとは、9 Sの記憶領域に自我データが退避している事を、願うしかない……

ポッド153

修復用ワクチン注入。

◎3秒後、心音停止SE「ピーッ……」

ポッド153

効果なし。修復用ワクチン再注入。

ポッド153

◎3秒後、心音停止SE「ビーツ……」

効果なし。修復用ワクチン再注入。

ポッド153

◎3秒後、心音停止SE「ビーツ……」

効果なし。

2B

どうして……どうしてっ!?

ポッド042

推測…修復用ワクチンの機能不全。

ポッド153

否定…修復用ワクチンの機能は正常な事を確認。

2B

もう一度、もう一度投与!

ポッド153

◎3秒後、心音停止SE「ビーツ……」

効果なし。

2B

もう……一度。

ポッド153

報告…9Sのメモリ空間内にデータ消去の痕跡あり。

ポッド042

否定…修復用ワクチンの効果。

ポッド042

推測…9S自我データの喪失。



2B

自我データ……喪失……

ポッド042

自我データを自ら消去したか、別の場所に移動した可能性。

ポッド042

ヨルハ機体A2の記録から、
機械生命体の「方舟」に退避した可能性も示唆される。

ポッド042

報告…9Sの自我データ復活の可能性は極めて低い。

◎S.P.

2B

そんな……

Nier Music Concert《人形達ノ記憶》では「朗読劇台本」付き指定席チケットが販売されたが、2017年5月5日夜公演の朗読劇「フェアウエル」では、事前販売された台本と異なる脚本が上演された。本項は、最終的に変更のあった第四幕について「事前販売された台本（白ページ）」と「実際に上演された台本（黒ページ）」を比較掲載したものである。

◎S.P.

2B

そんな……9S……

◎ピッ、ピッ、ピッ、という何かの電子音。

ポッド153

報告：自我データの痕跡に、記憶構成要素を発見。

ポッド153

自我は復活できないものの、記憶の一部を再生可能。

ポッド153

質問：記憶構成要素修復の必要性。

2B

……データ修復。

2B

そんな……

◎2B、涙声で

2B

まだ、お別れも言っていないのに、どうして私だけ……

2B

どうして……

◎嗚咽する2B。

◎「ピッ、ピッ、ピッ」とびびりながら音が鳴る。



ポッド153

了解。

ポッド153

データ修復完了。

ポッド153

再生開始。

◎ラジオのようなノイズが鳴り、9Sの音声再生される。

◎9S、苦しそうに。

9S

機械生命体達の方舟には……乗らなかった。

9S

僕達ヨルハ部隊は、誰からも望まれない、死ぬための部隊……

ポッド042

ブラックボックス信号に異変を検知。

2B

もう、どうでもいい……どうでも……

ポッド042

警告：ブラックボックスに異常な振動。温度上昇。

◎2Bは嗚咽を続けている。

◎アラート音がどんどん激しくなる。

警告：義体制御に問題発生。

ポッド042

FCCS停止。

ポッド042

NFCS停止。



9 S

だけど、僕は、この部隊に生まれて、良かったと思ってる……

9 S

僕の……自我データは、もう、形を留めていない。

9 S

このまま、消えてなくなってしまうだろう。

9 S

でも、いいんだ……

◎2B、声にならない音で泣く。

ポッド042

近距離電波迷彩開始。

ポッド042

ヨルハ機体2Bバイタル低下。

◎2B、フラフラしはじめる。

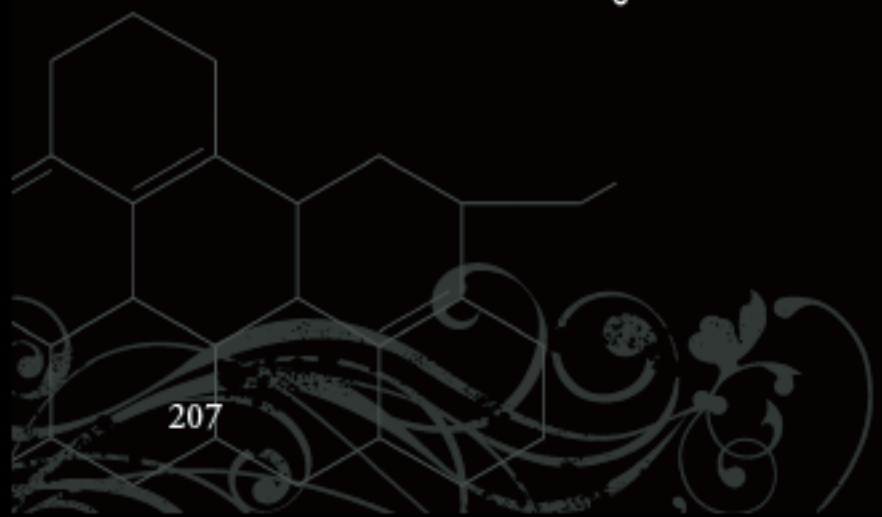
ポッド042

警告…ヨルハ機体の生命維持に甚大なダメージが発生。

ポッド042

推奨…早急な義体整備と、安全な場所でのメンテ……

◎その言葉を遮るように、ポッド153が報告。



9S

ねえ、2B……僕達は永遠じゃない。

9S

いつか、壊れて土に還る。

9S

でも僕の存在は、無意味じゃ、なかった……

9S

君に出会えたことが……生まれた意味だったんだ……

9S

ありがとう……

9S

ありがとう……

◎9Sの声、ノイズでかすれて

ポッド153

報告…ブラックボックスに異常な振動。温度上昇。

ポッド042

既にその異常事態について報告済み。

ポッド153

否定…当該振動はヨルハ機体2Bのものではなく、

ポッド153

ヨルハ機体9Sのブラックボックスから発生している。

◎2B、継続してフラフラしつつ、(9Sが来るので)所定位置に移動。

ポッド042

否定。ヨルハ機体9Sの自我データは既に消滅。

ポッド042

再起動する事は原理的に不可能。

◎アラートが激しさを増してゆく。



9
S

◎2B、嗚咽しながら。

ナインズ……

ポッド042 (ナ)

2Bはその場を動こうとはしなかった。

ポッド042 (ナ)

いつまでも、いつまでも、動こうとはしなかった。

ポッド042 (ナ)

非合理的で、非建設的な行為だ。

ポッド042 (ナ)

……だが、『私達』は今となっては理解出来る。

9
S

◎「レ——」と長いアラート。
◎その後、「レ、レ、レ、レ……」と長い心音の「レ」。

◎9S、舞台袖からヨロヨロと歩きながら登場。

う……

◎2B、9Sの気うへ。9S、所定位置に。

2
B

……ッ!! ナインズ……!!



ポッド042 (ナ)

なぜ、2Bが動かないか。

ポッド042 (ナ)

なぜ、2Bに言葉がないのか。

ポッド042 (ナ)

『私達』もまた、同じ気持ちで、その場にいるのだから。

◎しばらく間。

ポッド153 (ナ)

全ての存在は滅びるようにデザインされている。

ポッド153 (ナ)

生と死を繰り返す螺旋に……

ポッド153 (ナ)

『彼等』は囚われ続けている。

9S

ここは……一体……

9S

2B……僕は……

2B

良かった……良かった……

ポッド153 (ナ)

その時、何が起きたのかは今もなお判ってない。

ポッド153 (ナ)

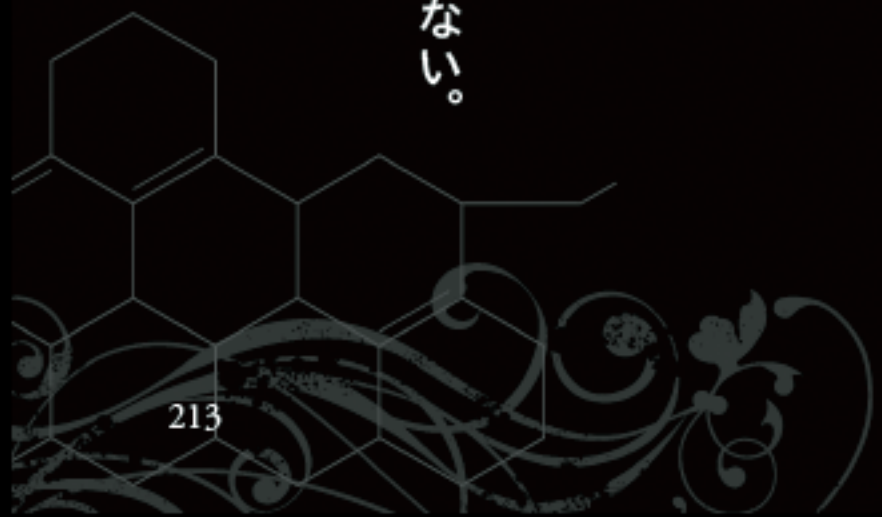
ブラックボックスが

9Sの記憶と自我データを取り込んでいたのかもしれない。

ポッド153 (ナ)

いずれにせよ、我々には判ってない、

エイリアンのテクノロジーが影響しているのだろう。



ポッド153 (ナ)

だが……その輪廻の中で足掻く事が、生きるという意味なのだ。

ポッド153 (ナ)

『私達』は、そう思う。

(終)

ポッド042 (ナ)

全ての存在は滅びるようにデザインされている。

ポッド153 (ナ)

生と死を繰り返す螺旋に……

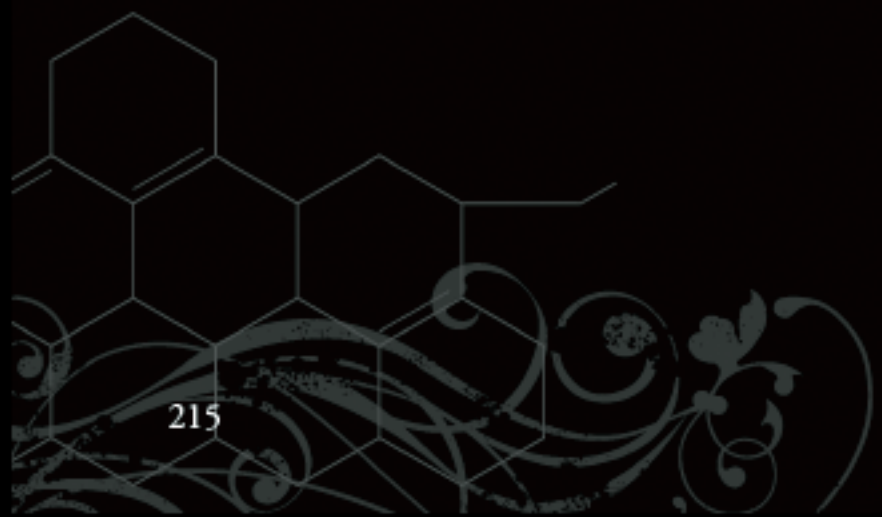
ポッド153 (ナ)

『彼等』は囚われ続けている。

ポッド042 (ナ)

だが、『私達』は諦めない。

◎ポッド達、2Bが正面を見据える。



9 S (ナ)

もし、この世界に呪いが満ちていても。

9 S (ナ)

もし、この世界が罰を与えようとも。

2 B (ナ)

その輪廻の中で、私達は抗い続ける。

2 B・9 S (ナ)

祈りの言葉を、歌いながら……

